

黙々と、敢然と。

エネルギーと環境を支えるため、今日も立つ。

recruiting book



人知れずエネルギーを支え、 地道に環境を守るヒーロー。

電力自由化の時代が到来した。
経営環境も、顧客からの要望も、
時々刻々と変化を続けている。

でも、決して変わらないことがある。

人々に安定したエネルギーを届けるのは、
いつの時代も、地道な現場の仕事だ。
誇りを胸に秘め、静かに持ち場に向かうヒーローが、
今日も人知れず、最善を尽くしている。

派手じゃないけど、大切な使命がある。

こんな職場はいかがだろうか。



社会や暮らしのエネルギーを支える3事業

「テクノ中部」と聞いて、ピンと来る人は少ないかもしれませんが、
 私たちが担うエネルギー事業や環境にかかわる調査・測定分析業務はどれも、
 世の中になくてはならないものばかりです。
 私たちは中部電力グループの一員として、
 エネルギーと環境にかかわる高い技術力で人と社会に貢献しています。

01 火力事業 Thermal power business

確実に、でも情熱的に。

中部電力の発電の主役である火力発電所において、
 燃料受入れから廃棄物処理に至るまでの様々な局面で重要な役割を担っています。

電気を作るには、エネルギーを生み出すための燃料が必要です。
 私たち火力事業では、中部電力の発電の主役となっている火力発電について、様々なシーンで安全かつ定期的に電気を届けるための重要な役割を担っています。
 まず入り口となるのは燃料の受入れ。発電所に国内外から船で運ばれてくる石炭、天然ガス、石油といった火力発電向けの燃料を受入れています。燃料はアジア、オセアニアなど世界各国から運ばれてきます。これらを確実に受入れることが大切な仕事です。
 燃料を受入れたら、次は発電所内での管理が必要です。燃料貯蔵施設から電気を作るボイラへと燃料を送るための設備を巡視点検し、

設備に異常はないかなど隔々までチェックします。時には防塵マスクに防護服を着て、手には聴診棒(ちょうしんぼう)を持って、細かな部品にいたるまで点検を行い、劣化や異変を見つけた場合には、速やかにメーカーや協力会社に連絡をして修理を行います。点検箇所は数万箇所にも及び、とても地道な作業ですが、トラブルを未然に防ぐためには欠かすことのできない仕事です。
 そして、発電の過程で必ず必要になるのが廃棄物の処理や環境を守るための業務です。燃料を燃やした後の廃棄物は環境に害を及ぼさないように適正に処理し、再利用できるものは必要な加工を行うなど、環境の保全を担っています。



02 環境事業 Environment business

地球を守る、って大げさだけど。

環境にかかわる事業は多岐に渡ります。人と自然が共生するために何が必要か？
 環境調査や測定分析を通してその答えを導き出します。

環境事業では、電力会社などから依頼を受け、環境にかかわる仕事を行っています。環境アセスメントに関する業務では、陸域(里山や山岳地など)や水域(海や河川など)に生息、生育する動植物や景観などの自然環境をはじめ、人口や土地利用状況、法規制などの社会環境を調査するとともに、新たに発電所などの施設を建設する際には、これらの環境に開発行為がどのような影響を及ぼすのかを予測し、環境への影響を回避・低減するためには、法規制値等を遵守するためには、どうしたらいいのかを事業者へ提言を行っています。また、これらの知識を生かして、動植物などの自然環境に関する調査研究はもちろんのこと、自然公園の設計、街の緑化、景観創造などコンサルティング事業も行っています。測定分析に関する業務では、土壌、水質、大気、産業廃棄物などの汚染について測定をしたり、社会問題となっているダイオキシンや石綿(アスベスト)、PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物などの処分支援業務なども担っています。社員は業務を通じて、それぞれの専門分野はもちろんのこと様々な分野を経験し、プロフェッショナルへと育っていきます。



03 原子力事業 Nuclear power business

使命感を胸に秘めて。

原子力発電の安全・安定運転を支え、原子力発電で培ってきた技術と経験を活かして広く社会に貢献しています。

ベースロード電源として電力の安定供給に欠かせない原子力発電の安全・安定運転を支えることが、私たちの役割です。中部電力浜岡原子力発電所において、私たちは、発電所に設定された管理区域内の放射線環境を監視し、そこで働く人たちが無駄な被ばくをすることなく安心して作業できるよう管理を行っています。また、プラントの健全性を維持、確認するため、プラントの運転で使用する水の水質や放射線の監視、発電所周辺地域の放射線測定、農畜産物や海産物の放射線測定、発電所前面海域の環境調査を実施しています。さらにプラントの運転やその定期点検に伴い発生する放射性廃棄物の分別・固化処理、低レベル放射性廃棄物埋設センター(青森県)への搬送にも携わっています。現在、発電の役目を終えた浜岡原子力発電所1、2号機では、商用軽水炉として国内で前例のない廃止措置が進められています。私たちは、その計画から処理・処分までの総合的な支援に携わり、新たな技術の開発や知見の蓄積に取り組んでいます。一方で、これまで発電所で培ってきた高度な技術や豊富な実績を基に、PET検査や非破壊検査等で放射線や放射性物質を取扱う病院、工場等の放射線測定を行う等、放射線・放射性物質が安全に利用できるような社会に貢献しています。



全体を俯瞰し、チームの舵を取る



会社の未来を創る、その最前線に立っている。

テクノ中部本店、火力部計画グループに勤務する中川淳。

石炭火力発電の現場からキャリアをスタートし、今その目線は、火力事業全体の未来に注がれています。

化学専攻の研究肌の学生が、ビジネスとしての火力事業の面白さに目覚めるまでにどんな経験があったのか、その道程を聞きました。

1時間に何百トンもの石炭を
発電ユニットに送る。その全ての
管理を担った、制御員時代。

入社後、最初の配属は碧南火力発電所の碧南事業所でした。環境管理課という、発電後に発生する排水や石炭灰の処理を担当する部署でキャリアをスタートし、3年目には燃料運営課に異動。発電ユニットに石炭を送る設備の点検・管理などを担う現場業務を経て、制御室で現場の作業全体をコントロールする制御員になりました。制御員は、非常にスケールの大きな仕事を担っています。安定した発電量を確保するためには、1時間あたり何百トンもの石炭を発電設備へ送る必要があります。そのため、制御室では、現在どの発



電設備にどれだけ石炭が残っており、あと何時間のうちにどれだけ量の石炭を送らねばならないかを全てコントロールしていきます。碧南火力発電所には全部で5つの発電設備がありますが、1つでも燃料を切らすことは許されないので。常にフル稼働を保つため、毎秒何トンのペースで石炭を送ればいいのかを緻密に計算し、設備の稼働状況や必要な人員配置をコントロールする、頭脳のような役割を担っています。どれだけ万全を期しても「もしも何かあったら…」というプレッシャーが常にあるので、キツイと思うときもありました。しかしその分、社会に欠かせない電力供給を担っているという手応えを感じながら、日々の仕事に向き合うことができました。

火力事業本部の、
この先に進むべき道を創っていく。

現場での多くの経験を経て、現在は本店の火力部計画グループという部署で働いています。仕事は、火力事業全体の「次に進む方向」を創っていくこと…という、少しカッコつけすぎでしょうか。私たちのお客様は、中部電

力様がメインです。年に一度、今後のテクノ中部が担う業務について新たな契約が結ばれます。現在は電力自由化などの社会的背景もあり、私たちの業務でもコストダウンや作業の効率化が急務です。今までの業務に必要とされていた時間の短縮化や効率アップなどが求められているのです。また、従来の業務に加えて新たな役割を担う必要性も高まっています。その中で、今後どのような点を改善すべきなのかを中部電力様と話し合い、その結果を社内に持ち帰り、上司や先輩、現場の管理職クラスの方々、私たちが今後向かうべき方向性について議論を重ねていきます。事業の将来に関わる仕事ですので、責任は重いです。しかし、現場で日々の業務に従事していた頃とは、また違った手応えを感じています。現場で、目の前の業務にひたすら向き合う日々とは違い、事業全体としてどの方向に舵を取っていけばいいのか、そのために現場をどう変えていくのか、そうした視点で仕事を考えられるようになったのです。この先また、現場へ戻る日も来ると思っているのですが、その際には、新しい視点で仕事に取り組みめると思っています。



中川 淳さん 平成20年入社

火力事業本部 火力部 計画グループ 主任/日本大学大学院 生物資源科学部 修了
院生時代は微生物学を専攻。名古屋出身。就活の際、地元企業を中心に志望先を模索していたところ、テクノ中部が担う環境関連の事業に興味を惹かれる。入社後は火力事業本部に配属。大学院時代の専攻とは直結しない業務ではあるが、電力供給の一端を担う仕事に、徐々に使命感を持つようになる。

現場から電力供給を支える

充実感ハンパないです。
日本一の看板背負ってますから。

石炭火力で日本一の規模を誇る碧南火力発電所。

大塚知博は、その現場において、燃料供給の現場を支える燃料運営課で働いています。

24時間、365日休むことなく稼働する

発電所の現場とはどんなものか?話を聞きました。

僕たちがいるから、
日々の暮らしに電気が灯る。

知ってます?碧南火力発電所って石炭火力で日本一の規模なんです。中部電力のベース電源として、中部圏の電力の屋台骨を背負っています。私が所属する燃料運営課は国内外から船で運ばれてきた発電用石炭を貯炭場に貯め、発電用ボイラへ送るまでの業務を担っています。私たちが運営管理する設備はスケールが大きくて、石炭の受入れや払出をするために操縦するリクレーマーは全長50メートル、石炭を貯炭場からボイラまで送るためのベルトコンベアーは総延長15キロにも及びます。これだけの大きな設備が24時間365日止まることなく稼働して、大容量の発電に貢献しています。日々の業務は設備の巡視点検と、それに付随する作業対応がメインですが、自分の仕事が中部電力管内に住む人々の生活を支えているんだと思うと、プレッシャーもありますが、誇らしい気持ちになります。



大塚 知博さん 平成22年入社

火力事業本部 碧南事業所 燃料運営課/東海大学 海洋学部 環境情報工学科卒業
大学では海をテーマに環境問題などを学ぶ。テクノ中部の環境技術事業や燃料海事業務等に興味を持ち、新卒社員として入社。現在は碧南火力発電所で発電用燃料の受入れ、貯蔵、払出をはじめ、燃料設備の運転管理に携わる。



暑さはハンパないけど、
仕事でかく汗は気持ちがいい。

石炭をボイラに送るためのベルトコンベアーが走るギャラリと呼ばれる建て屋があります。ここでの巡視業務はけっこうキツイ。密閉された空間でむき出しの石炭を扱っているため、湿度、温度ともに外気よりも高く、夏場は特に体力的にやられます。室温40度、湿度80%という中で作業していると、気がつくといく汗だくなっていることも。それに、ギャラリーに入ると石炭の粉塵にまみれて、顔や手が黒くなるんです。そんなときは職場に備えてあるシャワーを浴びてから帰宅しますが、シャワーを浴びる瞬間は至福のひとつ。今日の俺いい仕事したなって、充実感に浸れます。仕事で汗をかくのは嫌いじゃないですね。

チームワークが大切だから、
お互いの長所短所は把握済み。

私たちは10名ほどのグループに分かれ、昼勤と夜勤の2交代で働いています。設備故障や送炭故障により電力供給に支障を与えないことが使命ですが、ささいな不具合であっても対応が遅れると、電力供給に影響を与えかねないので常に緊張感がありますね。その分、集中力を発揮して何かあれば技術力とチームワークで即座にトラブルに対応していく。そうやって、小さな不具合も見逃さないことで、電力を安定供給しているんです。作業中は基本的に忠実であることとチームワークが求められます。そのために、日頃からグループ内はもちろん、課全体で些細なことでも聞き合ったり、話し合ったりできるようなアットホームな雰囲気づくりを心がけています。グループメンバーの性格はお互いに把握してい



るので、長所短所を補完しながら、一丸となって取り組むことができるんです。

不安だらけの新入社員時代。
風通しのいい社風に救われた。

7年前に学生から社会人になって、右も左も分からず、不安な気持ちで碧南にきたのを覚えています。職場の皆さんが気にかけてくれて、いろいろ声をかけてくれたので、分からないことがあってもすぐに周りに聞いたり、相談したりできる環境で仕事ができただけは有り難かったです。先輩ができた今は、自分がしてもらったように何でも聞きやすい環境を作ることも僕の仕事。聞かれて答えるだけではなく、こちらからも情報発信して職場の雰囲気作りをしていきたいですね。

夢は一国一城の主。
庭のある一軒家を持ちたい。

今は会社の独身寮に住んでいます。同世代が多いので、みんなで出かけたり食事に行ったりすることもしょっちゅうあって、寮生活はなかなか快適ですが、いつか寮を出るときには、大きな庭のある一軒家を持つのが目標です。自分自身はずっとマンション住まいだったので、一軒家への憧れがあって、社会人になったら夢を叶えようと幼い頃から思っていたんです。広い庭でペットを飼ったり、家庭菜園をしたり…。なんかいいでしょ?仕事面では、まだ碧南火力発電所でしか働いたことがないので、会社の業務全般についてもっと知りたいという気持ちがあります。まずは火力事業で頑張っ、その後は他の分野にもどんどんチャレンジしていくつもりです。

テクノ中部での暮らし

福利厚生や社内の様子をご紹介します

社会に必要なエネルギーを安定供給するという使命を背負うテクノ中部。

任務の遂行には、一人ひとりの社員の現場での頑張りが欠かせません。

だからこそ、全員が幸せな人生を送れるように、サポートも充実しています。…なんて固いノリで言ってみました、

仕事・プライベートともに結構のびのびと働く・暮らす社員や社内の様子をご紹介します。

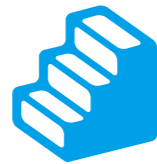
各福利厚生制度

社会人こそ勉強です

「スキルアップしたい!」という熱意は大歓迎!

◎資格取得支援制度
(受験費用全額会社負担、さらに合格祝金支給)

◎社外通信教育受講補助
(公的資格等取得のための通信講座や一般通信講座を修了した場合、受講料の全額を補助)



気軽に健康相談

2名の専任健康相談員が、明るく楽しく元気よく働くためのサポートを行っています。各事業所をまわって健康診断の結果をフォローしたり、健康的な生活を送るための情報を発信したり、身近なアドバイザーとして活躍しています。



ずっと活躍してもらうために

子育てを応援します。

◎育児休業(子が満2歳に達する日まで)
◎育児のための勤務時間短縮措置
(子が小学校3年生の年度末に達する日まで所定勤務時間を2時間を上限に短縮)



これからは大事

◎介護休業(要介護者1人につき延べ365日まで、何度でも分割取得可能(回数制限なし))
◎介護のための勤務時間短縮措置(本人が申し出た期間内で何度(何日)でも取得可能(所定勤務時間を1時間または2時間短縮))



プライベートが充実してこそその仕事です

◎特別休暇(結婚時7日・配偶者出産時2日など)
◎リフレッシュ休暇(年度内3日)
◎メモリアル休暇(本人または配偶者の誕生日に1日) …などあり。
これを利用して毎年旅行にでかける社員もいます。



20代で持ち家も夢じゃないかも

賃貸住宅暮らしか住宅ローン返済中は「住宅助成金制度」がサポート♪
最大10年間、月額1.5万円を支給します。
夢のマイホーム取得へ背中をひと押し!



野球、サッカーなんでもござれ

クラブ活動がさかんです。中電グループ会社の大会もあります。野球部、サッカー部、テニス部、山岳会etc. その他の同好会もあるので、興味のある方はぜひ。



飲み会費の補助アリ!?

…と言っても勘違いしちゃいけません。「職場親睦行事」を補助。仕事を円滑に進めるための親睦行事なら、喜んで補助しています。
◎慰安会
◎職場懇親会



各施設



レストランみたいです

どこのレストラン?と思うかもしれませんが、ここは社員食堂。よくある長机スタイルではなく4人掛けのテーブル席が並び、ゆったりくつろげます。日替わりランチもワンコイン以内!

そうだ、屋上へいこう



本社社屋の屋上にはビオトープがあります。小川にはカエルや魚が泳ぎ、水田では田植えや稲刈り体験もできます。仕事の合間の息抜きに、おいしい空気を吸いに屋上に上がってみては。

ドラマに出てきそう?



なにやら大きくて立派な講堂。ホテルの貸し会議室みたいな贅沢な造りで、ちょっとした非日常感を味わえます。ここでは重要な会議やセミナーなどが行われています。

卓球、しませんか?



ひろ〜い多目的室では、昼休みになると卓球を楽しむ社員たちの姿が。シャワー室があるので、ついアツくなってしまうのも大丈夫。体を鍛えたいならエアロバイクもどうぞ。

意外と快適! 住めば都の独身寮暮らし。

事業所の近くには独身寮があり、若手社員が暮らしています。部屋は6畳一間。決して広くはありませんが、大浴場や娛樂室など共有スペースが充実。寮の食事もおいしいと評判です。





<https://www.techno-chubu.co.jp>



社 名 株式会社 テクノ中部
所 在 地 〒455-8512 名古屋市港区大江町3番12
TEL (代表)052-614-7171 FAX (代表)052-614-7151
資 本 金 1億2千万円
事 業 内 容 ・発電設備、燃料設備、廃棄物処理設備、環境設備
及びガス供給設備の工事、運転、保守及び管理
・揚油及び揚液等の燃料関連業務
・貨物利用運送業、海上運送業、通関業及び船舶代理店業
・環境調査、測定及び分析事業並びに環境影響評価事業
・廃棄物処理及び再利用に関する事業
・放射線管理並びに放射性廃棄物の処理及び検査に関する事業
・石炭灰、石膏及び化学薬品類の販売並びに肥料の製造及び販売
・海事及び港湾並びに上記事業に係わるコンサルタント事業
・労働者派遣事業
・不動産の賃貸及び管理
・測量業
・上記に付帯関連する一切の事業